平成 30 年 10 月 11 日公開授業

第２学年　美術科学習指導案

２年２組　男子２１名　女子１９名　計４０名
指　導　者　　萩原　至道
【授　業】13：30～14：20　会場　美術科教室（３階）
【協議会】14：30～15：20　会場　美術科教室（３階）

１　題材名　　刻まれた祈り

（新学習指導要領に関する内容）第２学年及び第３学年

Ｂ鑑賞　（1）ア(ア)　造形的なよさや美しさを感じ取り，作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして，美意識を高め，見方や感じ方を深めること。

〔共通事項〕　（1）ア　形や色彩，材料，光などの性質や，それらが感情にもたらす効果などを理解すること。
イ　造形的な特徴などを基に，全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

２　題材について

（１）題材観

鑑賞の学習は，自分の見方や感じ方を大切にして，造形的なよさや美しさなどを感じ取り，表現の意図と工夫，美術の働きや美術文化などについて考えるなどして，見方や感じ方を深めるなどの鑑賞に関する資質・能力を育成する活動である。こうした活動を積み重ねていくことは，生徒一人一人が自分の見方や感じ方の変容に気付いたり，見方や感じ方が深まることに喜びを感じたりしながら，自己の内面を豊かにし，情操を培い豊かな人間性の形成につながるのである。

本題材では，広隆寺（京都市）の弥勒菩薩半跏思惟像を鑑賞の対象として取り上げる。弥勒菩薩半跏思惟像は飛鳥時代（７世紀後半）に作られた赤松の一木造（一部除く）で，我が国の国宝第一号である。表情や体つきなどからはしなやかで優しさを感じる表現になっており，その姿からはゆったりとリラックスした雰囲気が漂う。このような仏像は仏教における人々の祈りの対象であり，作られた時代やその地域・国の人々の理想を反映した姿で表されている。主に寺院や美術館などで展示されていることが多く，中学生にとってあまり身近な存在とは言えない。だからこそ，仏像と向き合ったときに，先入観なく自分の目と心で素直に感じ取ることができると考える。さらに感じ取ったことを造形的な視点で捉えていき，他の生徒との対話を通して，それぞれの生徒の思いや考えを聞くことで，生徒の見方や感じ方を広げていくことにつなげていきたい。

本校の第２学年では，１０月に京都への修学旅行が予定されている。班別フィールドワーク活動では，多くの生徒が京都市内の寺院を巡ることになる。日本の美術文化遺産でもある本物の仏像を鑑賞できるこの機会に，ただ「見る」ではなく，生徒一人一人が自分の見方や感じ方を大切にして，主体的に造形的なよさや美しさを感じ取り，それらの価値を互いに交流し合うなどして，自分の見方や感じ方を一層深めていくためにも，この学習の意義は大きいと考える。

（２）生徒観

生徒は，１年時にフィンセント・ファン・ゴッホの「夜のカフェテラス」を鑑賞し，作品に見られる光の輝きや鮮やかさについて，色彩の工夫を視点に探っていった。また，ジャコモ・マンズーの「椅子と果物」（塑造作品）を鑑賞し，物の形やその構成，材質感などから作者の表現意図について考えを巡らせた。

本学級の生徒は美術の授業に意欲的に取り組む生徒は多く，楽しんで表現活動に取り組んだり，自分の考えをもって鑑賞活動をしたりする姿が見られる。しかし，考えをもっていても積極的に発表しない生徒が少なくない。気付いたことや感じたことを自由に発表できるよう，学習形態の工夫や受容的な雰囲気づくりなど，互いに話し合い，深め合える授業展開にしたい。

（３）指導観

本題材では，生徒一人一人が自分の見方や感じ方を大切にしながら，造形的な視点から作品を捉えていき，さらに他の生徒の思いや考えを交流し，生徒の見方や感じ方を深め，広げていくことにつなげていくために，次のような手立てを講じたい。

本来，鑑賞作品については，実物と直接向かい合い，作品のもつよさや美しさについて実感を伴いながら捉えさせることが理想である。なるべくそれに近づけるよう，今回は実物大のカラー図版を準備し，実際に作品に向き合い，その大きさから仏像の雰囲気を感じ取れるようにしたい。また，対象が立体作品であるため，様々な角度から撮影されたカラー資料を掲示したり，生徒一人一人にも配布したりして，鑑賞の手がかりとなるようにしたい。個人のカラー資料には作品から感じたことや気付いたことなどをメモしてもよいことを伝え，自分の考えを書き留めておけるようにする。鑑賞の最初５分間は，喋ったり，他と言葉を交わしたり一切せず，生徒個人で作品に向き合う時間を確保する。対象と生徒が一対一でじっくりと向き合い，作品が訴えてくるものを読み取る場面を設定することで，自己との対話でつくりだされる作品の見方や感じ方を生徒一人一人がもつことに

つながると考える。個人での鑑賞後，生徒が作品から感じたことを聞いた上で，「この仏像の何が○○を感じさせるのだろう」と問い，感じたことが作品の何に由来するのか，形や色彩，材料などの造形的な要素を視点に考えさせたい。そのために，作品から感じたことと造形的な要素などの関わりが構造的に記入することのできるワークシートの内容を工夫したい。また，それを手がかりにして，作品から感じた印象やイメージを，他の生徒に根拠をもって説明することができると考える。他にも，説明を聞く生徒にとって内容を理解しやすくなり，他の生徒の違った見方や感じ方を把握することができ，生徒自身の見方や感じ方を広げることにつながると考える。他にも，ワークシートに自分の思いや考えを記入する際には，自分の考えを黒色，他の人の考えを聞いて納得のいったものは青色，自分の考えを修正するときには赤色といったルールを示すことで，生徒自身が自分の考えの変容を確認できるようになる。

このような活動を通して，仏像に対する生徒一人一人の見方や感じ方が深まり，修学旅行での班別フィールドワーク活動では，主体的に作品に向かい，よさや美しさなどの価値を感じ取るなど学びあるものになるのではないかと期待している。

3　教科の本質に迫る授業づくり

作品から感じたことを造形的な視点で考え、捉えさせることで、その作品の造形的なよさや美しさなどを見出すことにつながる。

造形的な視点とは，美術科ならではの視点であり，教科で育てる資質・能力を支える本質的な役割を果たすものである。仏像から感じたことを造形的な視点を軸に，「なぜ○○と感じるのか」，「そう感じさせるのは何か」「他に感じさせるものはないか」という「問い」を個人や全体の場と重ねて考えさせることで，作品を捉える鑑賞の視点を豊かにすることにつながるのではないかと考える。また，鑑賞を通して，同じ形や色彩，材料などであっても生徒一人一人に様々な見方や感じ方があることに気付き，さらに，その中でも全体を貫く本質的なよさや美しさなどの価値が存在することに気付くことができるのではないかと考える。

4　題材の目標

○　仏像の形や色彩，材料などの特徴や印象，本質的なよさや美しさに関心をもち，主体的に感じ取ろうとしている。（美術への関心・意欲・態度）

◎　仏像の形や色彩，材料などの特徴や印象，本質的なよさや美しさなどを感じ取り，自分の価値意識をもって味わっている。（鑑賞の能力）

5　全体計画（全１時間）

時	学習活動	評価規準〔共通事項〕	配時
1	○弥勒菩薩半跏思惟像と向かい合い，印象やイメージを感じ取る。 ○作品から感じる印象やイメージは，何から感じさせられているのか探る。	・仏像の形や色彩，材料などの特徴や印象，本質的なよさや美しさに関心をもち，主体的に感じ取ろうとしている。【美術への関心・意欲・態度】（観察） ・仏像の形や色彩，材料などの特徴や印象，本質的なよさや美しさなどを感じ取り，自分の価値意識をもって味わっている。【鑑賞の能力】（観察・発言内容・ワークシート）	１／１ （本時）

6　本時の学習（１／１時間）

（１）指導目標

弥勒菩薩半跏思惟像の鑑賞を通して，作品から感じられる印象やイメージについて造形的な視点捉えることで，作品をより深く感じ取ることができることに気付けるようにする。

（２）展開

学習活動と予想される生徒の反応（配時）	指導上の留意点
1　弥勒菩薩半跏思惟像を鑑賞する。（７） 全体	・カラー図版の掲示や資料を配布し，それらを手がかりに鑑賞させる。美術室内に掲示したカラー図版は自由に見てまわってよいことを伝えておく。 ・無言で作品に向き合わせる。 ・作品を見て感じたことなどは個人のカラー資料に記入してよいことを伝えておく。

2　作品から感じたことを発表する。（５） ・穏やかな感じ ・柔らかい印象 ・深く考えている感じ ・静かなイメージ 3　学習課題を確認する。（１）　全体	・じっくり見た上で感じ取ったことを自由に発表させる。このとき理由は発表させない。 ・１躯の仏像であるが，人によって感じ方に多少の違いがあることを気付かせる。
この仏像の何が「○○」を感じさせるのだろう。	
4　作品から感じる印象やイメージは，何から感じられるのか探る。(10)　個人・グループ ・目が半開きになっているところが物事をはっきりと見ていない感じがしてぼやっとした感じがする。それが「柔らかい」眼差しになっている。 ・口元から微笑を感じるが，左右で口角の上がり具合が多少違う。そこから単なる笑みではなくて，何か「心に秘めた」ものがある気がする。	・ワークシートを用いて，作品から感じ取ったことは何が関係しているのか，その構造を考えさせる。 ・グループの形態で活動させ，必要があれば相談しあっても良いことを伝える。また，美術室内のカラー図版を見て回ってもよい。 ・各グループの活動の様子を把握し，意図的指名に生かす。 ・仏像の形や色彩，材料などの特徴や印象，本質的なよさや美しさに関心をもち，主体的に感じ取ろうとしている。【美術への関心・意欲・態度】（観察）
5　作品から感じる印象やイメージは，何から感じられるのか発表する。(15)　全体 ・穏やかな感じがするのは，口元の僅かな笑みだと思う。口を開けて笑えば騒がしい感じがするし，口角が上がっていなければムスッとして緊張感が生まれる。 ・口元以外にも体全体のなめらかな感じが柔らかく，それが穏やかさにつながっている。 ・表面がざらついた感じだから古びていて，穏やかというより，何かシーンとした静寂を感じる。	・作品から感じる印象やイメージとその根拠についてのつながりが曖昧であったり，説明が不足していたりする部分については，適宜問い返すことで，真意を明らかにしていく。 ・作品から感じることについて，色々な造形的な要素から考えられるよう，生徒から出てこない視点については教師の方から投げかけ，考えさせる。 ・予めメモのルールを示しておき，他の生徒の発表を聞いて感じたことや考えたことなどがあれば，随時メモできるようにして，自分の考えの変容を確認できるようにする。
6　弥勒菩薩半跏思惟像のよさや美しさについてまとめる。（７）　個人・全体 ・全体やそれぞれの部分からも「柔らかい静寂」を感じた。ただ穏やかなだけではないところが美しさなのかも。 ・何を考えているのかは分からないが，とても落ち着きのある様子で，見ていると安心させられるのが美しさかな。	・これまで探ってきた作品から感じられる印象やイメージと形や色彩，材料など，様々な造形的な要素を踏まえて，作品のよさや美しさについて自分の考えをまとめるよう促す。 ・仏像の形や色彩，材料などの特徴や印象，本質的なよさや美しさなどを感じ取り，自分の価値意識をもって味わっている。【鑑賞の能力】（観察・発言内容・ワークシート）
7　仏像（美術作品）を見る視点について確認する。　（５）全体	・本時で学習したことを修学旅行の班別フィールドワークで生かせるよう，「見て，感じて，考える」ことについて確認する。

7　授業観察の視点

・　仏像から感じたことを造形的な視点を軸に，「なぜ○○と感じるのか」，「そう感じさせるのは何か」「他に感じさせるものはないか」という「問い」を個人や全体の場と重ねて考えさせたことは，作品を捉える鑑賞の視点を豊かにすることにつながったか。